

## Q&A CA2

- Q 本製品以外に準備する機器や消耗品は？
- A ルミノメーター、ボルテックスミキサー、測定用プレート（培養用プレート）、マイクロピペッター、滅菌水（ATPフリー水）など。
- Q 検量線作成は必要ですか？
- A 不要です、測定値の相对比较を行います。
- Q 培地を他測定に使用したいので除去しても構いませんか？
- A 新しい培地を添加すればATP測定できます。 操作性を優先し、培地存在下での測定に最適な仕様になっています。
- Q 試薬の凍結融解は繰り返しできますか？
- A 凍結融解5回まで最大発光量は維持されます。 最初の融解時に遮光瓶に小分けを推奨します。
- Q スフェロイド培養にも使用できますか？
- A 溶解不足の恐れがあります。 当社の『塊の』ATP測定試薬をご使用ください。
- Q 浮遊細胞数の測定にも使用できますか？
- A 測定できます。
- Q 卵割細胞数の測定にも使用できますか？
- A 測定は可能です。 （弊社では実測例がなく、卵割数とATP量の相関は未確認です）
- Q タンパク質アッセイはできますか？
- A 正確なタンパク質アッセイができません。 本製品は細胞溶解と発光の1液タイプにてATP測定した検体には、ルシフェラーゼが含まれています。
- Q 発光試薬の調液後の保管条件は？ 保存期間は？
- A 開封後も調液後は-20度・遮光保管。 試薬の経時劣化はATP標準液を用いてご確認ください。
- Q 発光試薬に含まれるルシフェラーゼのオリジンは何でしょうか？ カルタヘナ法に準拠していますでしょうか？
- A 北米産ホタル由来のルシフェラーゼを発光酵素として利用しています。 酵素とその製法はカルタヘナ法に準拠しています。
- Q 発光試薬添加の操作で重要なことは？
- A 試薬添加時にエアの巻き込みを抑えること、試薬添加から発光測定までの時間を統一することにご留意ください。
- Q シングル（キュベット）測定できますか？
- A 測定可能ですが、本製品はウエルプレート測定の仕様です。 製品特長である簡便/迅速の操作性が活かされませんことをご了解ください。